



樹木のふしぎ／センダン  
みどり探訪／善福寺川「紅葉橋」付近を散策  
特集／屋敷林ってどんなところ？  
みどりの窓／この春3公園が開園ほか  
緑の歳時記／ホソエガラシ  
園芸ワンポイント／デンドロビウムの育て方

## 樹木のふしぎ

### センダン (梅檀)

5～6月頃に涼しげな薄紫色の小花をたくさん咲かせます。満開時には遠くから木全体が薄紫色に美しく見え、アゲハチョウなどがよく訪れます。

#### ◆どんな木ですか

温帯域に自生する落葉高木で、高さ5～20mになります。材質は柔らかく赤みを帯び、建築用や家具などにも使われています。古くから街路樹や公園などによく植えられています。

#### ◆どんな実がなりますか

果実は夏過ぎから熟し始めて、10～12月頃に、楕円形で長さ2cm程の黄色い実が、枝先に鈴なりに実ります。秋も深まり、落葉後も、果実が長くぶら下がっている様が目立ちます。生の果肉はすりつぶして塗布すると、ひびやしもやけに効くと言われています。

#### ◆万葉集で詠まれています

万葉の昔から親しまれ、「あふち」、「おうち」という古名で歌に詠まれています。枕草子でも清少納言が花を「いとをかし」(趣がある)と称賛しています。



実



冬芽



花



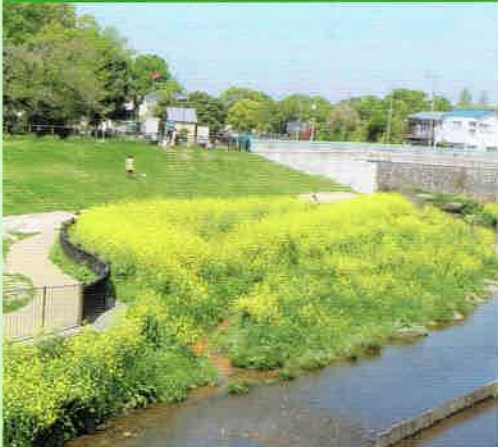
# みどりの探訪

## — お散歩編 —

### 方南町駅～堀ノ内熊野神社～済美教育センター～ 善福寺川紅葉橋～済美公園～済美橋

区内をお散歩しながら、みどりを見て癒やされませんか。

#### ④ 済美公園・善福寺川親水施設

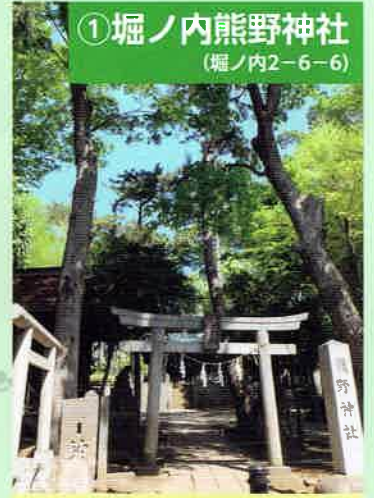


河川の親水護岸と一体的となっているのが特徴的な済美公園。親水施設は川の近くまで降りることができ、水辺を身近に感じられます。

(親水施設の開門:午前9時頃～午後5時頃。11月～3月は午後4時頃まで)  
※天候等によって開門を中止する場合があります。



#### ① 堀ノ内熊野神社 (堀ノ内2-6-6)



クロマツ、アカマツ、ケヤキの大木に囲まれた、由緒ある神社です。鎌倉時代創建の杉並区で一番古い鳥居が、静かにわたし達を、迎えてくれます。



#### ② 区立済美教育センター (堀ノ内2-5-26)



立派な樹形を誇るクロマツ



#### ③ 善福寺川紅葉橋付近の遊歩道



善福寺川沿いはお散歩に最適。水辺に群がるカルガモ、コガモ、ハクセキレイなど多くの鳥を目にすることが出来ます。



マメザクラ

#### ●交通機関 済美教育センター・堀ノ内熊野神社への行き方

- ▶地下鉄丸ノ内線「方南町駅」1番出口下車 徒歩10分
- バス:JR阿佐ヶ谷駅発(渋谷駅行)「堀ノ内2丁目」下車 徒歩7分
- バス:井の頭線永福町駅発(新宿駅西口行き)※「(A)大宮八幡入口」下車 徒歩10分  
(高円寺駅行き)※「(B)大宮八幡入口」下車 徒歩10分
- :お散歩モデルコース:地下鉄丸ノ内線方南町駅～済美橋 およそ1.4km

歴史ある施設だけに多種多様な樹木が植栽され、鬱蒼とした森林の雰囲気漂います。初夏にはアジサイが咲き乱れ、秋にはイロハモミジがすばらしい紅葉を見せてくれます。さらに、春には野生の桜としては珍しいマメザクラが可憐な花を咲かせます。

●済美教育センター開門時間:平日午前7時30分～午後7時15分(土曜は午後5時15分まで)。日曜・祝日・年末年始は閉鎖。



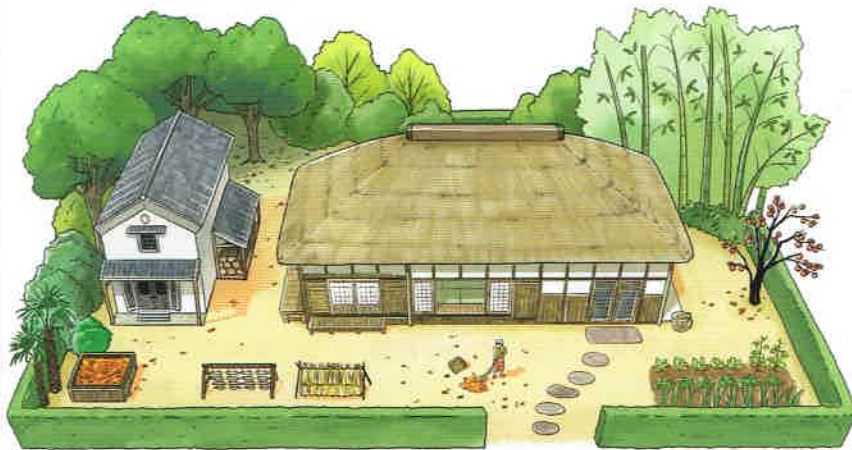


わたしたちの心に安らぎを与えてくれるみどり。その中でも、豊かなみどりである屋敷林は都市の貴重な存在ですが、近年ではだんだんとその数が減ってきています。

今号の特集では、屋敷林の役割や昔の生活との関わりなどについてお伝えします。

## 生活に欠かせなかった屋敷林

昔の杉並は、田んぼや畑が広がる農村地帯でした。多くの方が農業に従事し、農家には屋敷林という林が見られました。屋敷林とはその名前があらわすように、家屋と一体になった林のことです。家屋を囲うように植えられた樹木は、冬の北風や土ぼこりから家や畑を守り、夏には木陰をつくり、日差しや西日をやわらげました。また、屋敷林はさまざまな形で農家の暮らしに活かされていました。例えば、丸太にして野菜を干すときに使う竿にしたり、建築用材として利用しました。落ち葉や枯れ枝が出れば堆肥や燃料にし、余すことなく活かしました。カキやウメの木からは実を、竹林からは筍を採って食料にし、ヤシの仲間のシュロの皮は縄やタワシの材料にしました。



昭和29年当時の善福寺川西田端橋付近(荻窪1・3丁目)



昭和10年頃の屋敷林での風景(個人提供)

### 所有者のお話

## 屋敷林とともに暮らして 清水2丁目 松原さん



所有者である松原さんが見てきた屋敷林のある風景の移り変わりや思い出などについて、語っていただきました。

### 屋敷林のある風景で育って

昔、私の住むこの辺りは畑でした。幼少の頃は木々と密接する生活を送っていました。炊事やお風呂を沸かすのにも、庭の樹木を切って薪にしてくべていました。遊びも、木登りや虫取りなど木の周りで良く遊んでいましたね。

関東大震災の後、杉並も家がどんどん建ち始めて、特に戦後には畑の周りが住宅地になってきました。それとともに、樹木は生活から遠くなっていきました。寂しい限りです。維持管理は大変ですが、数百年に渡りこの地で育ってきた樹木であり、幼少時からの思い出や愛着があるので、これからも残していきたいですね。





# 姿を消していく屋敷林

関東大震災後、杉並の人口が増えて宅地化が進むにつれて、屋敷林はだんだんと姿を消していきました。また、高度経済成長期には、屋敷林を生活物資として利用することも少なくなってきました。さらに近年は、落ち葉や日照をめぐる周辺住民との関係など、さまざまな理由により維持が難しくなり、伐採にいたるケースが多く出ています。

見慣れた風景だった屋敷林は、いつの間にかその存続が危ぶまれるようになりました。



## 都市の屋敷林の機能

現在は、昔のように屋敷林が利用されることは少なくなっています。しかし、人口過密が進んでいる杉並においてこそ、まとまったみどりである屋敷林の存在は貴重です。

荘厳にそびえる屋敷林はまちにみどりの景観をつくりだし、風格を与えます。また、周囲は風が通りぬけ、夏の暑さがそっとやわらぎ、空気が澄んで感じられます。そして、まちのオアシスとなり、私たちのところに潤いや安らぎをもたらしてくれます。さらに、豊かなみどりは動物たちの貴重な住処になります。

杉並の昔ながらの面影、原風景を残す屋敷林は、現代になっても他には代えられない形で、私たちにさまざまな恩恵を与え続けています。杉並に残る貴重な屋敷林、今一度良さを見直してみませんか。



ウメ林  
保育園児に向けて開放しているという屋敷林のウメ林。草原と木陰が心地よく、園児たちのよい遊び場となる。



清水の屋敷林  
林の一部が市民緑地（いこいの森）として開放されている。



竹林  
もとは用材等にするため植えられた竹林。みどりの風景として潤いを与えている。

### 所有者インタビュー

#### 地域とともにある屋敷林に 井草2丁目 森田さん



なため、維持管理には苦労されています。

ご主人は、「落ち葉やどんぐりをどう思うかなど、自然に対する考え方は人それぞれですね。でも、お互いに顔を知り、つながりをもつことで、理解を得られることもあると感じます。地域の方の思いや理解を抱いて、この屋敷林を残していきたいです。」と話されていたのが印象的でした。

大きな樹木に囲まれた敷地の中に入ると、都会の一角とは思えない景色が広がります。新緑の香り、若葉の匂いなどに日々癒されているという森田さんご夫妻。この屋敷林に愛着を持って暮らされている様子がお話から伺えます。

敷地の樹木が、倒木や枝折れなどで、地域の皆さんの迷惑にならないかを心配されています。敷地内には歴史ある樹木が多くあり、その状態も様々



「毎日の畑仕事を楽しんでいます。」と話す奥様(左)とご主人(右)



# この春開園した3公園をご紹介します



## 下井草どかん公園

住所:下井草3丁目13番21号  
面積:1059㎡

主な施設:小山、どかん遊具、のぼり棒、鉄棒、だれでもトイレ

元々あった遊び場112番を拡張し、遊具などを追加して広々とした公園に生まれ変わりました。どかんと小山が特徴的な公園です。



## 清水いづみ公園

住所:清水2丁目17番12号

面積:625㎡

主な施設:藤棚、井戸、どかん遊具、スイング遊具

保育園に隣接した見通しの良い公園です。



## 方南緑地

住所:方南1丁目52番33号  
面積:142㎡

マンション建設の開発行為に伴い整備された公園です。

## 塚山公園みどりの相談所 からのお知らせ

長年に渡り、みどりの相談所の相談員として、皆様からの植物に関する相談などにお答えしていた森正先生、南澤乙亥先生が、この春相談員をご勇退されました。

新たに井上滋美先生、竹内高子先生の2人が加わり、戸辺広二先生の3人体制で皆様からの植物に関する相談をお受けします。



引き続き、みどりの相談所をご利用ください。  
※相談所所在地等については6P上部を参照。

## みどりのイベント 2021開催



遊びを通してみどりに親しみみどりについて考える「みどりのイベント」。5月29日土曜日、柏の宮公園にて開催されました。規模を縮小しての開催とはなりましたが、天候にも恵まれ、親子連れなどが楽しむ姿が見られました。



◀木の輪切りの配布。輪切りには絵を描いてストラップなどにします。

## 緑の歳時記

Kさんのちょっと好奇心

## ホソエガラシ (細柄辛子)

アブラナ科/南ヨーロッパ原産の一年生または二年生草本

杉並区役所前の渋谷行きのバス停付近に生えている「ホソエガラシ」。ホソエガラシの細いサヤ状の実が気になっていました。1本の茎に、実を70個ほど付けています。

さて、1本のサヤ状の実の中には、一体いくつ種が入っているのでしょうか。数えてみたくなり、ルーペ片手に数えてみました。1ミリの大きさに満たない種が、平均約65粒ありました。したがって、1本の茎には約4,550粒の種ができるわけで、改めて植物の力を感じました。

ホソエガラシは、3~4月頃、花を見ることができます。

※Kさんとは本誌編集ボランティアです。



細いサヤ状の実。この中に種がいくつ?



みどりの相談所の先生に聞く



みどりに関する相談は  
**塚山公園 みどりの相談所**  
 ☎03-3302-9387  
 杉並区下高井戸5-23-12  
 毎週日曜日(第5日曜日、年末年始を除く)  
 午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



## デンドロビウムの育て方

### ラン科デンドロビウム属

洋ランには、デンドロビウムのほかにシンビジウムやカトレアなど多くの仲間があり、育て方も異なります。ここではデンドロビウム属だけを取り上げますが、約1000種を超えるほどあると言われ、いずれも樹木の幹や枝に着生しています。日本産のセッコクもこの仲間です。原産はインド、タイ、マレーシア、オーストラリアなどです。



●置き場

室内などで越冬させる場合は、日の当たる明るい場所に置きます。暖かくなって庭に出すときは、日の当たる場所に置き、日焼けを防ぐために風通しを良くします。

最低温度は10℃前後を保つと花もちがよくなります。7月ごろになり、直射日光に当たると葉焼けを起こすことがあるので、30～40%の遮光をします。

●水やり

洋ランは一般的に素焼きの鉢に、ミズゴケで植えます。成長期(4～7月中旬頃)には水をたくさんあげます。成長期が終わる7月中旬から9月中旬までは、1日夕方1回、水をやります。9月中旬以降11月までは、7日～10日に1回と乾かし気味にします。成長期以外の休眠中は乾かし気味にしますが、株はしおれないように、暖かい日に全体に霧吹きスプレーで水をやります。

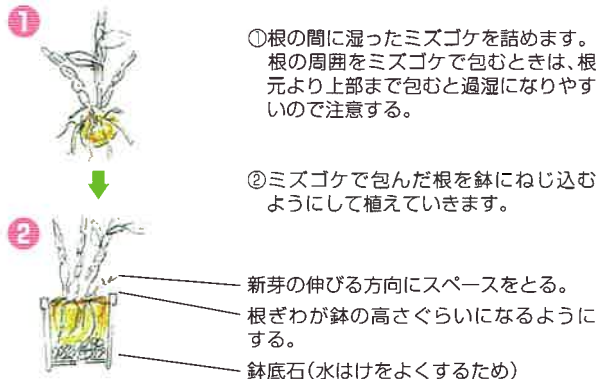
●施肥

3月から7月まで、月2回液肥を2000倍に薄めて施します。大きさが親指大の固形油かすを3～5個ぐらい置き肥をするとさらに有効です。

●植え替え・株分け

株で鉢が一杯になったり、ミズゴケが古くなり傷んでいたら、鉢を植え替えます。3月～4月頃になったら、株を鉢から抜き、古い根、腐った根などを取り除き、新しい鉢に収まりや

すいように調整し、水につけておいたミズゴケをよく絞って植えます(植え替えは下図参照)。



●病害虫

病気が出たら殺菌剤などを散布します。また、害虫の場合には、殺虫剤などを散布します。カイガラムシの場合はブラシなどでかき落とします。

●高芽とり

高芽とは…本来花がつくべきところが、環境や栽培状態で葉芽に変わったものです。茎の途中から根っこが出てきます。

●高芽が出たら

- 成熟後、乾燥低温処理をしなかった場合や、窒素肥料が多すぎた場合などに高芽が出やすくなります。花芽にならず葉芽になったら、十分成長させてから繁殖に用います。
- 高芽は十分成長して葉が5～6枚に、根は3～5cmになったら切り離し、鉢にミズゴケで植え付けます。



デンドロビウム年間管理カレンダー

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生長段階		休眠期		開花期			生育期		花芽の分化期			休眠期	
置き場		室内				屋外				室内			
遮光		遮光なし				遮光				遮光なし			
水やり		7日に1回		乾いたらたっぷりやる			1日1回夕方		7～10日に1回		7日に1回		
施肥		無施肥		薄い液肥と油かすの固形を置く			無施肥		無施肥				
植え替え・株分け		植え替え・株分け											
病害虫		病気が出たら殺菌剤を害虫が出たら殺虫剤を散布する											

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 公園や街路樹を観察していると木々の花が2週間早く咲いているようです。今年はアジサイの仲間が目を引きました。176号が出る頃はどんな花が見られるか楽しみです。(山)
- ベランダでベチュニアが赤ピンクとにぎやかに咲いています。(水)
- 善福寺川の散歩コースは、コサギやカモなど鳥達の観察もでき楽しいです。(三)
- 昨年に引き続き、屋外取材を除きリモート編集中心となりましたが、良い面もあったと思います。(中)
- センダンはまだ見たことがなく「柃(セン)」の漢字も初めて知りました。ぜひとも本来の上品な香りを嗅いでみたいです。(み)
- 家庭菜園のプチトマトが沢山黄色の小花を咲かせ、緑のカーテンのインゲンも実をつけ、楽しい毎日です。(原)



みどりの新聞 みどりとひと176号 令和3年8月20日発行  
 編集／みどりのボランティア  
 編集・発行／杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111  
 「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

